

第18回高校生・高専生科学技術チャレンジ

「不思議だな」を追いかけて

科学技術政策担当大臣賞

チョウの翅の撥水性と微細構造の関係—水接触角・滑落角の観点から—

中山和奏さん=神戸大学付属中等教育学校6年



中山和奏さんは小さいころから、昆虫を見るのが好きだった。トンボにカマキリ、ダンゴムシ。家庭で小さな命をたくさん見かけた。「羽がきれい」。特に引かれたのがチョウだった。中等教育学校4年生（高1）のとき、授業がきつかけで本格的に調べ始めた。なぜ、雨が降ってもチョウの羽には水しみこまないのだろう。羽に何か秘密がある？種によつて違う？ふつふつと湧いてきた疑問を自分の目で確かめることにした。

実験を重ねた。チョウの羽に水滴を落とすと、水滴はつぶれずに球状になって流れ落ちていることを見つけた。モンシロ力してもらえないかと、研究計画書を持って訪ねた。研究者を通すと、ますます知りたいことが増えた。直接「初めてだよ」と驚かれたが、快諾してもらえた。参考になる論文ももらつた。

著者の勤務先を訪ねた。す

ぐで退職していると言わ

れたが、「もし、よければ

と連絡先を渡したところ、アドバイスをもとに

後日、本人からメールが届いた。

アドバイスをもとに

お礼を伝えたいです

者とは2年以上、100通

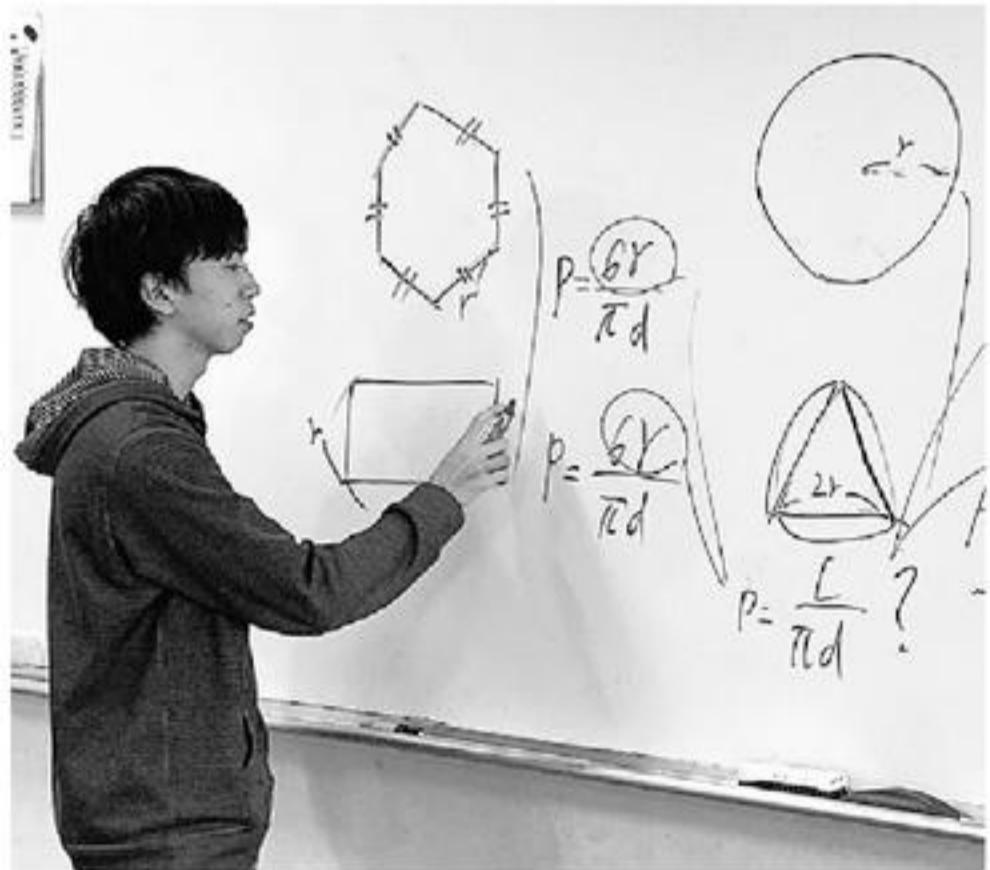
近いメールのやりとりをしていました。顔も知らない。不思議な関係だ。「コロナが落ちいたら、実際に会つてお礼を伝えたいです

アドバイスてくれた研究者と、尊敬の念が湧いてきます」

科学技術振興機構賞

ピュフォンの針の高次元への拡張～図形を用いた確率の計算理論と幾何への応用～

左藤開己さん=奈良女子大学付属中等教育学校6年



数学の確率の問題では、サイクロの目やコインの裏表の出方など、「離散型」と呼ばれるタイプがよく登場する。左藤開己さんが特に関心を持ったのは、計算に積分を用いる「連続型」の確率だ。

挑んだのは「ピュフォンの針」と呼ばれる問題。床の上に等間隔で何本も平行線を引き、長さをそろえた針を次々と落としたら、平行線に交わる確率はいくらか。この確率は、針の長さに比例し、平行線の間隔には反比例することが知られている。

こうして左藤さんは次々

と、ピュフォンの針の問題に向かって付いていて、この構造がより撥水性を高めていることを確認した。応用すれば、撥水性の高いレインウェアや傘の素材に使えるかもしれない。「体は小さいのに、こんなに緻密で精巧な仕組みを持つているなん。尊敬の念が湧いてきます」

アドバイスてくれた研究者とは2年以上、100通近いメールのやりとりをしているが直接会つたことはなく、顔も知らない。不思議な関係だ。「コロナが落ちたら、実際に会つてお礼を伝えたいです

羽の研究つながる成果と縁

確率と幾何学の関係に興奮

機械学習を用いた体格・骨格ベースの動物走行速度予測モデル
～キリンがチーターより速くないのはなぜ？～

遊橋望海さん
＝浜松市立高2年（静岡県）

レール上を転がる球の摩擦力の研究

竹中工務店賞
＝玉川学園高等部2年（東京都）

クエン酸及びマグネシウムイオンによりシステインプロテアーゼは阻害される

阪急交通社賞
＝兵庫県立宝塚北高2年

ミツバチの記憶・学習能力は個体間のコミュニケーションによって発達する

川口拓真さん
＝安田学園高3年（東京都）

花王特別奨励賞

植物の吸水リズムを生み出す原因とは

前田彩花さん（右）
＝ノートルダム清心学園
石原亜佑美さん（左）
＝清心女子高3年
岡山県

自然言語処理と機械学習を用いたタンパク質の高発現塩基配列の創製

南慧さん
＝甲南高2年
兵庫県

審査委員奨励賞

マイクロプラスチック等の海洋環境リモートセンシングにおけるロボティクスの活用

(左から)
木村元弥さん、谷口さくらさん、池田誠秀さん
＝池田学園池田高2年（鹿児島県）

転んだダンゴムシ、どのように起き上がる？

畔野菜々美さん
＝千葉市立千葉高3年

河川に堆積した砂粒の形や鉱物の体積から源岩からの距離を推定する方法の提案

(左から)
山本夏希さん、岩本澤治さん、奥見啓史さん
＝兵庫県立姫路東高2年